

氏名	落 合 義 幸
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	甲 第 4 9 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和36年 3 月31日
学 位 授 与 の 要 件	医学研究科外科系産科婦人科学専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学 位 論 文 題 目	ALLERGIC HISTOLOGICAL CHANGES IN THE PREGNANT RABBIT ORGANS INDUCED BY INJECTION OF THE GLOBULIN FRACTIONS FROM HUMAN PLACENTA
論 文 審 査 委 員	教授 橋 本 清 教授 三 上 芳 雄 教授 武 田 俊 光

学 位 論 文 内 容 要 旨

人正常妊娠胎盤および妊娠中毒症胎盤組織から抽出した可溶性蛋白ならびに同蛋白から分離したグロブリンおよびアルブミン分層の血清免疫学的性状を観察し、これら蛋白分層中には非妊婦血清蛋白にはみとめられない特殊抗原性の蛋白が存在し、その特異蛋白は胎盤組織蛋白中のグロブリン分層に存在し、アルブミン分層には存在しないことを確認した。

さらにこれら胎盤組織蛋白分層を妊娠および非妊ウサギに注射して、その肝臓の病理組織学的変化を追求した。その結果は妊娠ウサギにおける組織変化は非妊ウサギのそれに比較して著変がみとめられる。すなわち主要所見として肝細胞の変性崩壊像、壊死ないし類壊死があり、大部分に空胞変性、顆粒変性、細胞の膨化がみとめられた。血管系においては血管の充盈および血管壁の浮腫性膨化がみとめられ、間質内には円形細胞の浸潤がみとめられた。以上の変化は血行障害を基調とするアレルギー性組織変化に類似し、人体における妊娠中毒症、ことに子癇における肝臓の病変に酷似した。而してこれらの組織変化は胎盤組織蛋白グロブリン分層中に存在する特異抗原性蛋白により惹起されたものと思惟した。

備考 第1編 ACTA MEDICINAE OKAYAMA Vol. 14, No. 3, September, 1960掲載

第2編 ACTA MEDICINAE OKAYAMA Vol. 14, No. 4, December, 1960掲載

論文審査の結果の要旨

落合義幸提出の「ヒト胎盤組織から抽出分離したグロブリン分屑の注射によって惹起された妊娠ウサギ臓器のアレルギー性組織変化」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は次の通りである。

著者はヒト正常妊娠胎盤と妊娠中毒症胎盤組織から抽出した可溶性蛋白ならびに同蛋白から分離したグロブリンおよびアルブミンの血清免疫学的性状について実験し、胎盤蛋白グロブリン分屑中には非妊婦血清にはみとめられない特異抗原性蛋白の存在を確認した。さらにこのグロブリン分屑を妊婦および非妊ウサギに注射してその肝臓の病理組織学的変化について実験し、その結果妊娠ウサギにおける組織変化が非妊ウサギのそれに比較して著変のあることをみとめ、その変化が血行障害を基調とするアレルギー性組織変化に類似し、人体における妊娠中毒症、ことに子癇における肝臓の病変に酷似することをみとめた。

而してこの組織変化は前述の胎盤組織蛋白グロブリン中の特異抗原性蛋白により惹起されたものと考えしているが、本論文はきわめてあたらしい知見に富み学術上有益であり著者には医学博士の学位を授与せられるべき学力を有するものとみとめる。